

# キクの生理障害「虎葉症」の 客土による軽減効果

農業総合センター鹿島地帯特産指導所

虎葉症は神栖市の圃場（褐色低地土）で栽培される輪ギクで発生する、葉がまだらに黄化する原因不明の症状です。研究の結果、虎葉症の発生の主要因は栽培土壌の孔隙率（土壌において粒子間の隙間が占める割合）の低下であることを明らかにしました。また、淡色黒ボク土の客土は、孔隙を増加させ、このことにより虎葉症の発生を軽減させることができることを実証しました。

## 淡色黒ボク土による 土壌物理性改善効果

虎葉症が多発生している圃場は、固相率が高く、孔隙率が低い特徴が見られます。

孔隙率が低下した圃場に淡色黒ボク土の客土を行うことによって、孔隙率が高くなり、物理性が改善されます。

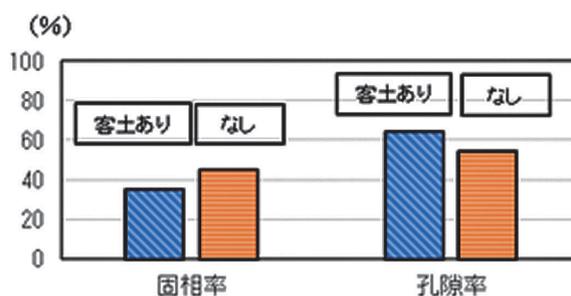


図1 淡色黒ボク土の客土を行った圃場と未客土圃場の固相率と孔隙率の比較



淡色黒ボク土客土圃場

未客土圃場

写真2 淡色黒ボク土客土を行った圃場と未客土圃場の虎葉症発生状況（平成27年10月20日撮影）

## 淡色黒ボク土客土による 虎葉症改善効果

淡色黒ボク土の客土を行った圃場では、行わない圃場と比較して、虎葉症の発生が軽減されます。

客土した圃場で栽培したキクは、客土しない圃場と比べ根量が増加することから、根域の土壌環境の改善が虎葉症の軽減につながっていることが示唆されます。

## 客土の厚さが 虎葉症改善効果に及ぼす影響

淡色黒ボク土の客土は、厚さ20cm以上で虎葉症の被害葉（症状が収穫時まで残り経済的被害をもたらす葉数）の発生を軽減させる効果が認められ、客土が厚い程その効果が高くなります。

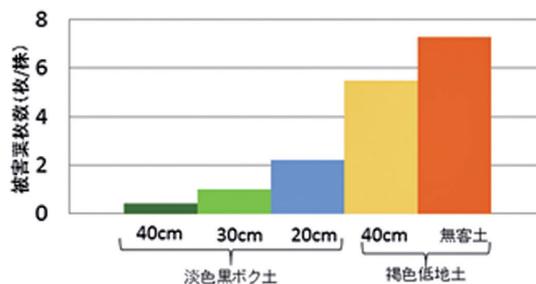


図3 淡色黒ボク土客土の虎葉症被害葉軽減効果